2022年度満足度調査（英語科）

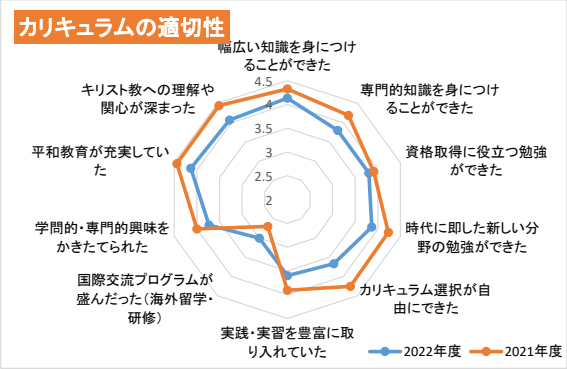
検証内容

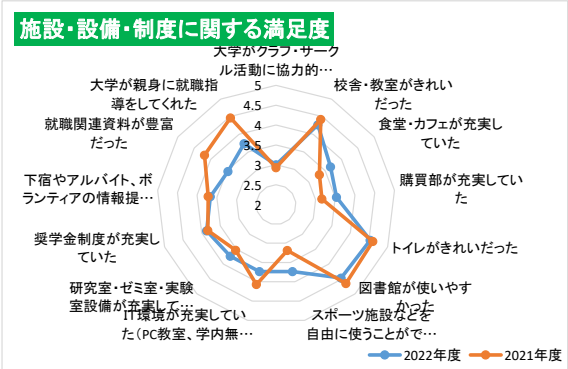
今年度卒業の学生を対象として満足度調査を行った。質問にはカリキュラムの適切性や施設・設備・制度に関するもの、学生生活に関する質問を設けている。得られた回答は集計し項目毎の平均値を前年度のデータと比較した。また、本調査では、学習成果の到達度を学生に自己評価してもらっており、その結果と他の学内データと照らし合わせて総合的に分析した。

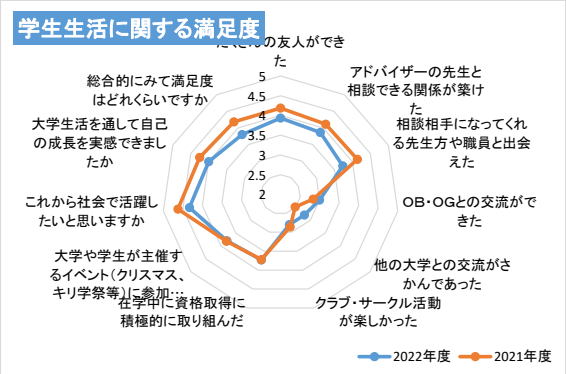
今年度は、回答率が半分にも達しておらず非常に低い回答率であった。そのため、今回の結果はあくまで参考程度に限られる。

【アンケート回収率32.6%】（前年度71.1%）

【カテゴリ毎の満足度】







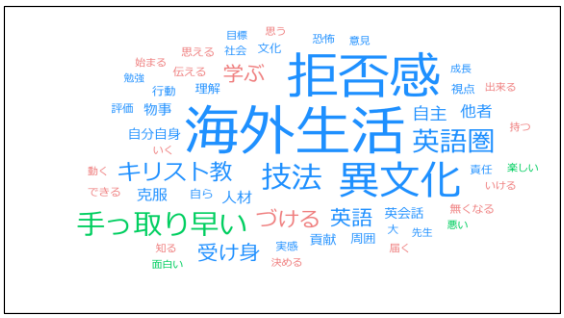
各数値の基準

満足：5、やや満足：4、どちらともいえない：3、やや不満：2、不満：1

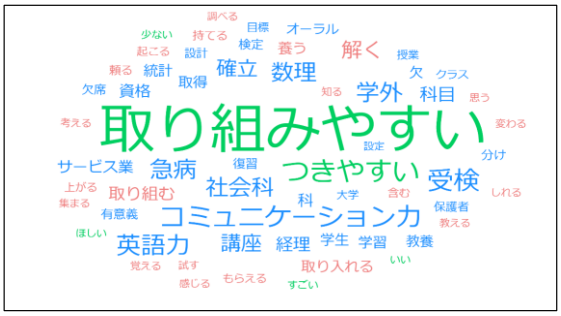
そう思う：5、ややそう思う：4、どちらもいえない：3、あまりそう思わない：2、そう思わない：1

【学生からのコメントのテキストマイニング】

《一番学びの大きかったこと》



《早くに知っておきたかったことやつまづきを感じたこと》



それぞれの項目の平均値を出し、前年度の平均値とその変化率を計算し違いをみていきます。

【カリキュラムの適切性】

10項目中、前年度より上がったのが1項目、下がったのが9項目で変化率が5%を超える項目は次の8つであった。

・専門的な知識を身につけることができた（-9.2%）
・時代に即した新しい分野の勉強ができた（-8.6%）
・カリキュラム選択が自由にできた（-13.8%）
・実践・実習を豊富に取り入れていた（-7.9%）
・学問的・専門的興味をかきたてられた（-6.7%）
・平和教育が充実していた（-6.9%）
・国際交流プログラムが盛んだった（11.2%）
・キリスト教への理解や関心が深まった（-8.4%）

【施設・設備・制度に関する満足度】

13項目中、前年度より上がったのが6項目、下がったのが7項目で変化率が5%を超える項目は次の7項目であった。

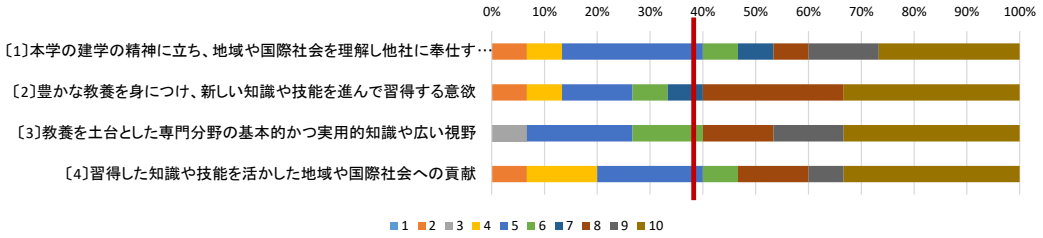
・食堂・カフェが充実していた（+10.3%）
・購買部が充実していた（+11.7%）
・スポーツ施設などを自由に使うことができる（+17.2%）
・研究室・ゼミ室・実験室設備が充実していた（+5.6%）
・IT環境が充実していた（-8.3%）
・就職関連資料が豊富だった（-17.2%）
・大学が親身に就職指導をしてくれた（-16.4%）

【学生生活に関する満足度】

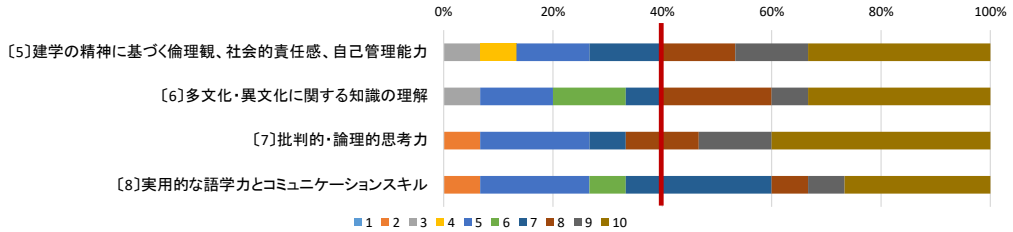
11項目中、前年度より上がったのが4項目、下がったのが8項目で変化率が5%を超える項目は次の8項目であった。

・たくさんの友人ができた（-6.0%）
・アドバイザーの先生と相談できる関係が築けた（-6.1%）
・OB/OGとの交流ができた（+5.7%）
・相談相手になってくれる先生方や職員出会えた（-9.8%）
・他の大学との交流がさかんであった（+12.5%）

学習成果の自己評価（短期大学）



学習成果の自己評価（英語科）



学生に対し本学で定める学習成果が卒業時にどれだけ身についたかを10段階で評価してもらった。

【短期大学の学習成果に対する自己評価】
赤線に注目すると、学習成果[2][3]において自己評価8以上が60%、学習成果[1][4]においても自己評価6以上が同様に60%あり、比較的、学習成果[2][3]が自己評価は高い。

【英語科の学習成果に対する自己評価】
同様に赤線に注目すると、学習成果[5][6][7]において自己評価8以上が60%以上、学習成果[8]は40%程度になることから、比較的、学習成果[5][6][7]の自己評価のほうが高いことがわかる。

冒頭で述べたが、今回は回答率が非常に低く十分な分析ができる量ではないと判断できるため、あくまで参考程度に限られる。

2022年度満足度調査（保育科）

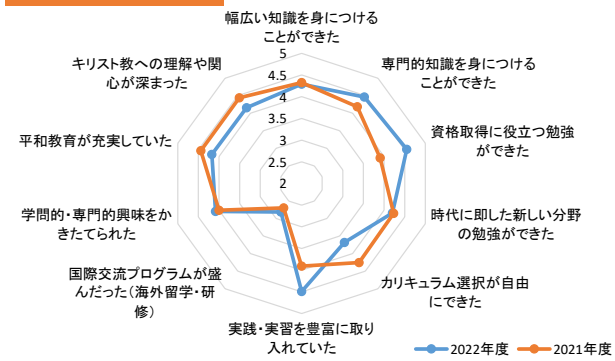
検証内容

今年度卒業の学生を対象として満足度調査を行った。質問にはカリキュラムの適切性や施設・設備・制度に関するもの、学生生活に関する質問を設けている。得られた回答は集計し項目毎の平均値を前年度のデータと比較した。また、本調査では、学習成果の到達度を学生に自己評価してもらっており、その結果と他の学内データと照らし合わせて総合的に分析した。

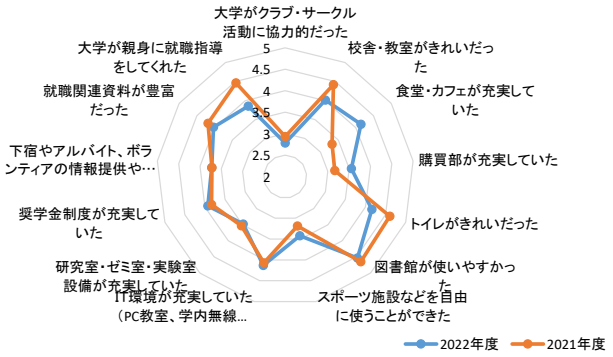
【アンケート回収率80.2%】（前年度71.2%）

【カテゴリ毎の満足度】

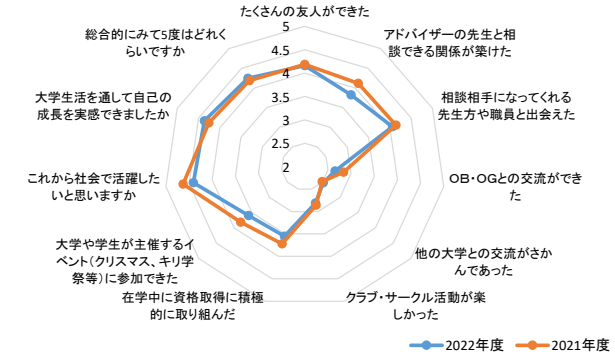
カリキュラムの適切性



施設・設備・制度に関する満足度



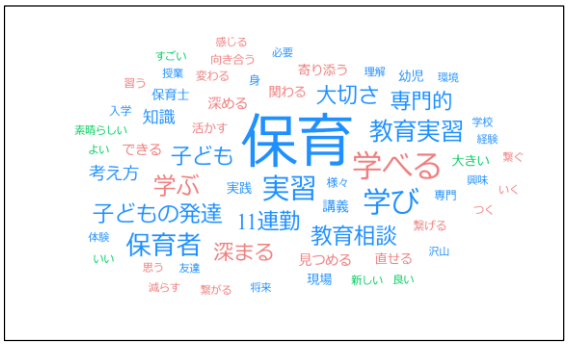
学生生活に関する満足度



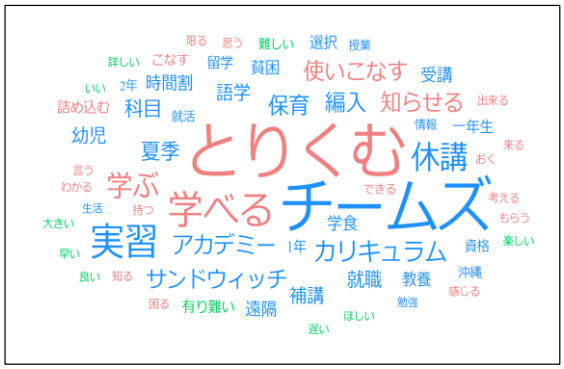
各数値の基準
満足：5、やや満足：4、どちらともいえない：3、やや不満：2、不満：1
そう思う：5、ややそう思う：4、どちらもいえない：3、あまりそう思わない：2、そう思わない：1

【学生からのコメントのテキストマイニング】

《一番学びの大きかったこと》



《早くに知っておきたかったことやつまづきを感じたこと》

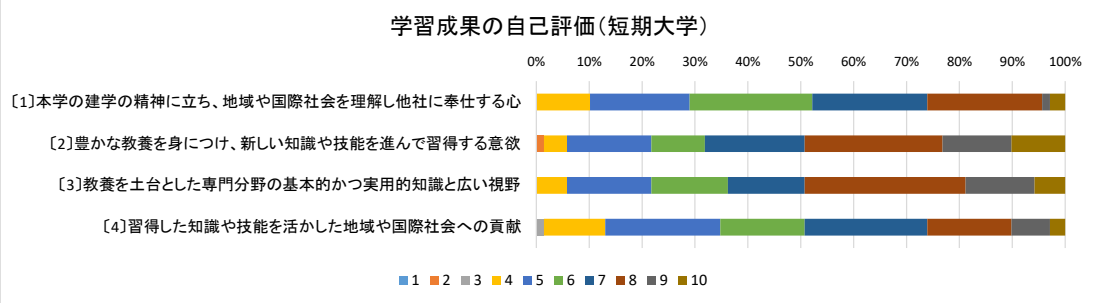


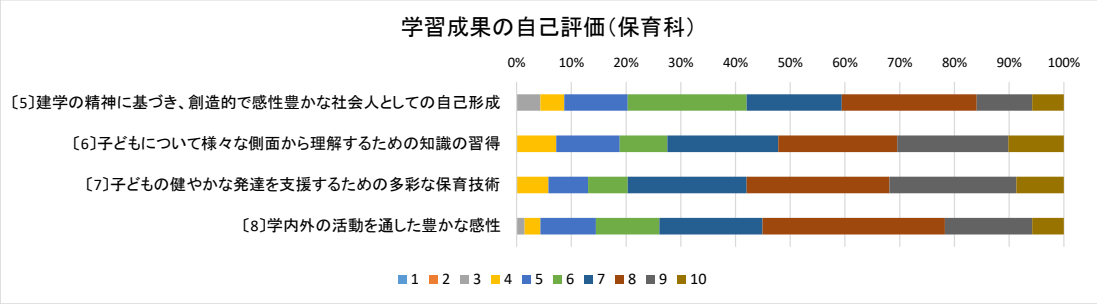
それぞれの項目の平均値を出し、前年度の平均値とその変化率を計算し違いをみていきます。

【カリキュラムの適切性】
10項目中、前年度より上がったのが5項目、下がったのが5項目。変化率が5%を超える項目は次の6つであった。
・専門的知識を身につけることができた（6.6%）
・資格取得に役立つ勉強ができた（16.5%）
・カリキュラム選択が自由にできた（-13.5%）
・実践・実習を豊富に取り入れていた（15.0%）
・平和教育が充実していた（-6.0%）
・キリスト教への理解や関心が深まった（-6.4%）
2022年度は2021年度と異なり実習がすべて実施されており、1年次で学内実習になってしまった科目があるものの、全体を通しての満足度がこれらに影響されている可能性は高い。また、「専門的知識の取得、資格取得に役立つ勉強」の満足度が大きく上がっているのも、実習の有無が関係していると考えられる。
大きく満足度が下がった項目として、カリキュラム選択の自由があるが、学内の他調査においても同様の意見がみられる。ただ保育科のカリキュラムの構成上、変更が難しいため、学生への理解を促すことも必要と思われる。

【施設・設備・制度に関する満足度】
12項目中、上がったのが6項目、下がったのが6項目。変化率が5%を超える項目は次の7つであった。
・大学がクラブ・サークル活動に協力的だった（-5.0%）
・校舎・教室がきれいだった（-9.1%）
・食堂・カフェが充実していた（24.6%
・購買部が充実していた（12.3%）
・トイレがきれいだった（-9.7%）
・スポーツ施設などを自由に使えた（7.4%）
・大学が親身に就職指導をしてくれた（-13.7%）
食堂・カフェや購買についての満足度が上がっているものの、学内の別調査では不満も多くみられることから、大きく数値を伸ばしている項目があるものの、今後の対応は慎重に考えていく必要がある。

【学生生活に関する満足度】
11項目中、上がったのが3項目、下がったのが8項目。変化率が5%を超える項目は次の3





学生に対し本学で定める学習成果が卒業時にどれだけ身についたかを10段階で評価してもらった。

【短期大学の学習成果】
上のグラフより、学習成果[2]と[3]のどちらも65%以上が自己評価"7"以上とつけており、他の2つの学習成果と比べて自己評価が高いといえる。学習成果の平均値をみると6.4～7.2の範囲にあり、どの項目も2021年度より下がっている。特に学習成果[1]についての低下が大きい。学生から見て具体的なイメージしにくいとも考えられるため、学習成果の周知について見直しが必要と思われる。

【保育科の学習成果】
上のグラフより、学習成果[6][7][8]では70%以上が自己評価"7"以上とつけており、自己評価は高いといえる。すべて保育に直結した学習成果であり、学生にとっても印象にのこりやすい項目と考えられる。しかし、平均値をみると6.9～7.6の間にあり、学習成果[7]は昨年度より上がっているものの残り3項目は下がっている。保育科は、どうしても資格取得に学生がフォーカスしがちであるが、短期大学の学習成果と同様、学生に対する周知の工夫が必要と思われる。